

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 (有)アンビック

1 事業の趣旨・目的

初級レベルの日本語文法、語彙、基本構文を学習しながら、日本語 4 技能のうち特に話す、聞く、読むを主眼とし、職場、家庭、学校、地域などで今すぐ必要な日本語コミュニケーションの習得を目指し、日本事情と日本人の社会生活、日常生活などの異文化の理解を促し、日本語能力試験 4 級を目指す。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2008.9.5	山本、北村、石川、 宮田、神保、大西	役割、テキスト、副教材の検討	役割分担、テキスト、副教材の決定
2008.9.11	山本、北村、石川、 宮田、原、神保、	カリキュラムの検討	1 日の進捗、チェックテストの内容決定
2008.9.18	山本、北村、石川、 原、神保、大西	カリキュラム補足検討と使用副教材の最終打ち合わせ	追加副教材の検討
2008.12.4	山本、石川、宮田、 原、神保、大西	実施の成果検討	チェックテストによる成果検討と今後について

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 日本人講師とネイティブとのペア日本語レッスン
- ② 開催場所 三島市大社町 18-11 森田ビル
- ③ 学習目標 地域内で日本人とのコミュニケーションができる日本語リーダーの育成
- ④ 使用した教材・リソース みんなの日本語初級 1、標準問題集、スーパーキッズ等
- ⑤ 受講者の募集方法 人材派遣会社訪問チラシ配布および募集依頼、ブラジル人教会 2 箇所の神父にチラシ配布募集依頼、
受講者の総数 25 人
- ⑥ 開催時間数(回数) 120 時間 (全 40 回)

⑦ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	9月27日 18:00-21:00	3時間 3時間	13人 12人	ブラジル人13人 ペルー人10人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	職業、自己紹介
②	9月28日 18:00-21:00	3時間 3時間	13人 12人	ブラジル人13人 ペルー人10人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	物の名前、疑問文
③	10月4日 18:00-21:00	3時間 3時間	13人 12人	ブラジル人13人 ペルー人9人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	どこ、数字、買い物、これ
④	10月5日 18:00-21:00	3時間 3時間	13人 12人	ブラジル人12人 ペルー人10人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	時刻、ます、ません、ました
⑤	10月11日 18:00-21:00	3時間 3時間	13人 11人	ブラジル人13人 ペルー人10人 アルゼンチン人1人	教授者2人 補助者2人	日付、誕生日、へ/で/と/に
⑥	10月12日 18:00-21:00	3時間 3時間	11人 11人	ブラジル人11人 ペルー人10人 アルゼンチン人1人	教授者2人 補助者2人	-を-ます、で-ます、に-ます
⑦	10月18日 18:00-21:00	3時間 3時間	12人 12人	ブラジル人12人 ペルー人10人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	で-ます、習います、-語-
⑧	10月19日 18:00-21:00	3時間 3時間	11人 11人	ブラジル人11人 ペルー人9人 アルゼンチン人2人	教授者2人 補助者2人	な形容詞/い形容詞
⑨	10月25日 18:00-21:00	3時間 3時間	11人 10人	ブラジル人11人 ペルー人9人 アルゼンチン人1人	教授者2人 補助者2人	上手です/好き/嫌い/あります
⑩	10月26日 18:00-21:00	3時間 3時間	10人 10人	ブラジル人10人 ペルー人9人 アルゼンチン人1人	教授者2人 補助者2人	位置詞、あります/います
⑪	11月1日 18:00-21:00	3時間 3時間	10人 11人	ブラジル人10人 ペルー人10人	教授者2人 補助者2人	助数詞、時間/期間、週間

				アルゼンチン人 1 人		
⑫	11 月 2 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	11 人 10 人	ブラジル人 11 人 ペルー人 8 人 アルゼンチン人 2 人	教授者 2 人 補助者 2 人	い形容詞かっ たです/いちば ん
⑬	11 月 8 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	10 人 10 人	ブラジル人 10 人 ペルー人 8 人 アルゼンチン人 2 人	教授者 2 人 補助者 2 人	-が欲しい、-た い、に
⑭	11 月 9 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	8 人 8 人	ブラジル人 8 人 ペルー人 7 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	動詞、て形の作 り方、て形練習
⑮	11 月 15 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	8 人 8 人	ブラジル人 8 人 ペルー人 7 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	て形整理、-て はいけません、 -ていいですか
⑯	11 月 16 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	8 人 9 人	ブラジル人 8 人 ペルー人 8 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	あいおかきし で始まる動詞 のて形
⑰	11 月 22 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	9 人 9 人	ブラジル人 9 人 ペルー人 8 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	ない形の作り 方、ない形練習
⑱	11 月 23 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	8 人 9 人	ブラジル人 8 人 ペルー人 8 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	辞書形の作り 方、辞書形まえ に
⑲	11 月 29 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	7 人 8 人	ブラジル人 7 人 ペルー人 7 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	た形の作り方 い形容詞、な形 容詞
⑳	11 月 30 日 18:00-21:00	3 時間 3 時間	7 人 8 人	ブラジル人 7 人 ペルー人 7 人 アルゼンチン人 1 人	教授者 2 人 補助者 2 人	普通体助詞 い形容詞、な形 容詞、名詞

⑨ 特徴的な授業風景

先に「～ないでください」を言えるように指導してから禁止の用語を勉強した。読めない漢字はあるにしても記号としてとらえて意味を理解していないと危険をとまなうのできちんと入れたい。生徒が自ら工場やアパートで許可・禁止されている事項に敏感になれるように宿題も出した。生徒が発する言葉は「～ないでください」という丁寧語だが、聴くのは「～するな」という辞書形(普通形)から変換した動詞になる。ます形から辞書形には問題なく変換できていたので問題はないと思う。今後の授業にも時々禁止のマークや交通表示などをとりいれて、生徒自身に「危険」を回避することを心がけてもらいたい。

街の地図を使って「近くに〇〇はありますか」「△△の横にあります」など、場所の説明をする文型の練習をした。「旅行会社」「クリーニング屋」「文房具屋」「本屋」「市役所」などまだ知らない場所を表す単語もあって予定より時間がかかったが、皆楽しそうに覚えながらやっていた。助詞抜けを含め助詞に関する間違いが多かった。敬語に関しては文型は「係長さんはいらっしゃいますか」という言い方だが、実際に役職に「さん」をつけるのは正しい言い方ではないので「〇〇係長はいらっしゃいますか」にした。接客の「いらっしゃいませ」という掛け声を意識している様子の人もいたが違いは理解していたようだ。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
原 ケイラ	スペイン語(ペルー)	15年	20回	授業補助, 通訳
宮田ビビアン	ポルトガル語	11年	15回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
山本幸恵	沼津国際交流教会	日本語教育能力検定試験合格	20回	日本語指導者
神保好伸	ヒューマン日本語講師会	日本語教育能力検定試験合格	20回	日本語指導者

4 事業に対する評価について

山本幸恵

総括

教室開催準備から関わり、教室が開講してからは日本語講師として始めから受講生の様子も見てきた。参加した受講生はいずれも真摯に学習に取り組み、テスト成績も全員80

点以上を修めている。日本語を学ぶことによって生活にも変化が見られているようだ。

1. 当初の学習目標の達成

当初の目標は みんなの日本語初級 I 終了を予定していたが、途中で何回か筆記、口頭の定着度試験を実施したり、ゴミ分別、病院ロールプレイ等のアクティビティを入れたため 20 課までの終了となった。

2. 学習者の習得状況

Aクラス (担任 神保好信 原ケイラ)

まとめテスト (平均点)			
1 回	2 回	3 回	総合
88 / 100	83 / 100	92 / 100	89 / 100
自分の身の回りのことに関しては容易にやり取りができるが、話し言葉が乱雑になりがちで、漢字に苦労している。			

Bクラス (担任 山本幸恵 宮田ビビアン、三田義知)

まとめテスト (平均点)			
1 回	2 回	3 回	総合
90 / 100	88 / 100	85 / 100	88 / 100
日本を理解し、日本に溶け込もうとしている人ばかりで、会話には多少不正確なところがあっても、すぐに修正でき十分対応できる。			

3. 日本語教室設置運営の効果・成果等

受講生とその周囲の関係にいい影響を及ぼすきっかけとなった。職場の学校の日本人と積極的に関わろうとするようになり、地域のイベントをボランティアとして手伝ったり、通訳をする受講生も出てきた。

4. 地域関係者との連携による効果、成果 等

地元コミュニティ広報誌から電話で取材を受けるなど、広報に関して協力してくれる関係者が増えそうである。

また、受講者の一人の団地内のごみ置き場を見学に行った際、団地の自治会長に説明を受け、これをきっかけに団地内や地域のマナーやルールなど、機会をつくれれば説明をしていただけることになった。

5. 改善点、今後の課題について (具体的に記述する。)

a. 現状

教室開催中に仕事を解雇され帰国した受講者がおり、仕事の都合で現在の居住地に住むことが困難になり、引越しを余儀なくされた受講生もいて受講者が減ってしまった。新たに受講者を募ったが、確保は難しかった。

b. 今後の課題

続けたいと希望する受講者がほとんどではあるが、これ以上仕事の解雇者が増えると受講者の人数は確保できなくなってしまう。受講者の確保・ニーズの変化に目をそらさずやっていたい。不況だからこそ、特に労働している受講生には日本語取得が必要だろう。

c. 今後の活動予定、展望

受講生の地域や職場・学校とかかわりを持って展開していきたい。それぞれの環境と密着した授業をすること。ひとりひとりが自分の生活に役立てるようにしたい。常識の違い（マナー）や日本文化も続けて教えていきたい。

